Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-08-08

第3章 被災資料と歴史資料の保全・活用事業

吉川, 圭太
木村, 修二
板垣, 貴志

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,12(平成25年度事業報告書):32-32

(Issue Date)
2014-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005558

― 第3章 ―
被災資料と歴史資料の保全・活用事業

歴史資料ネットワークへの協力・支援

(1) 災害対応関連

2013年4月13日に発生した淡路島地震に関して、4月16～17日にかけて、坂江渉・板垣貴志・前田結城が淡路島の巡回調査を実施した。

4月16日は淡路市、4月17日には洲本市および南あわじ市において現地調査を行った。その結果、被災家屋は一部損壊が多かったものの、洲本市では墓石の倒壊が確認されるなど、石造物の倒壊被害について多数確認した。ただし、文書資料に関しては、いくつかの旧家にも訪問したところ、現状の限りにおいては史料の無事を確認した。

この巡回調査にあたっては、これまでの地域連携活動や資料保全活動によって築いてきた関係により、地元教育委員会の担当者の方々をはじめ、関係者・所蔵者の協力を得ることができた。

（文責・吉川圭太）

(2) 神戸市兵庫区平野地区における活動

本年度も「奥平野古文書勉強会」毎月1回（第２日曜）開催され、すべての例会で木村がチューターを行った。（文責・木村修二）

石川準吉関係資料の整理

昨年度に引き続き、生野鉱山史研究の第一人者であった石川準吉旧宅（目黒・藤沢）に残る新出史料群（石川通敬氏所蔵）の調査を行った。作業の現場統括は、三村昌司（東京未来大学）が担当し、これらをもとに神戸大学にて目録作成作業を行った。（文責・板垣貴志）

― 第4章 ―
阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会

本年度はいくつかの団体に協力して、次のような震災資料関係の報告や意見交換会等を催した。

① 2013年5月27～28日

東日本大震災の震災資料関係機関の視察及び意見交換として、奥村弘・佐々木和子・吉川圭太・水本有香が、岩沼市内の現地調査を行い、岩沼市史編纂室にて震災資料の収集・保存について意見交換した。また、石巻赤十字病院にて東日本大震災発生時の避難所対応記録・医療資料を視察・調査し、今後の保存・データベース化・研究活用などについて意見交換した。これは、S科研グループと東北大学災害科学国際研究所特定研究プロジェクト「東日本大震災の震災資料の所在調査および収集･保存の手法等に関する検討」（研究代表･奥村弘）が協力した。

② 2013年5月30日

国立国会図書館において開かれた東日本大震災アーカイブ関連機関の連絡会に奥村弘・佐々木和子が出席し、東日本大震災記録のアーカイブの体制構築と今後の活用等について協議した。

③ 2013年10月20日

S科研グループ主催、地域連携センター及び阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会の共催による災害資料フォーラム「阪神・淡路大震災から東日本大震災へ」を神戸大学瀧川記念学術交流会館にて開催した。当日の参加者は約70名であった。

④ 2013年12月8日

新潟大学災害・復興科学研究所危機管理・災害復興分野が主催するシンポジウム「震災資料・学校資料をどのように保全し活用するか」（新潟大学）にて、板垣貴志が「現代社会と災害アーカイブ―求められていること、できること―」と題して報告した。